

令和 5 年 11 月 1 日

加 賀 市 長

(担当 総務部財政課)

見 積 依 頼 書

下記のとおり見積徴収を行いますので、見積書を提出されるようお願いします。

物 件 名 等	大聖寺城跡パンフレット
見積提出期限 及 び 場 所	令和 5 年 11 月 2 日 午前 11 時 30 分 加賀市役所 総務部 財政課
見積書宛名	加賀市長 宮元 陸
納 入 期 限	令和 5 年 11 月 30 日
納 入 場 所	産業振興部文化振興課
落 札 方 法	総価落札
注意事項	1 指定日時までに提出されない場合は、見積をご辞退されたものと解釈させていただきます。 2 会社にあっては社印、代表者印を、個人についても記名捺印をお願いいたします。

伺 番 号 第 0000243 号

品 目 明 細

年 度 令和 5 年度

件 名 大聖寺城跡パンフレット

伺 番 号 0000243

1 / 1

No.	品 名	印刷製本（単位：枚）	分類番号	002-002-000
1	規 格	大聖寺城パンフレット印刷		
	数 量	5,000 枚		
No.	品 名		分類番号	
2	規 格			
	数 量			
No.	品 名		分類番号	
3	規 格			
	数 量			
No.	品 名		分類番号	
4	規 格			
	数 量			
No.	品 名		分類番号	
5	規 格			
	数 量			
No.	品 名		分類番号	
6	規 格			
	数 量			
No.	品 名		分類番号	
7	規 格			
	数 量			

印刷仕様書

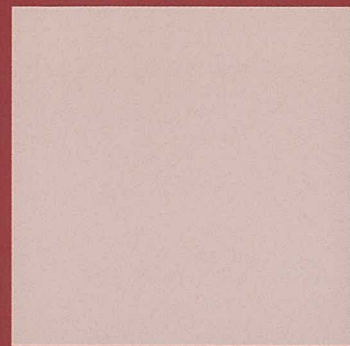
産業振興部 文化振興課

件名	大聖寺城パンフレット印刷		
紙質	コート紙 四六判 135 kg相当 見本は財政課契約グループで確認いただけます。		
印刷	両面刷り 4C / 4C		
規格	A3		
形状	二つ折り (仕上がり A4)		
数量	5,000 部	校正	<input checked="" type="radio"/> 要 <input type="radio"/> 否
納入期限	令和5年11月30日	納入場所	産業振興部文化振興課
<p>その他連絡事項 (校正担当 産業振興部 文化振興課 浅野) (内線 3474)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校正は1回とする ・別添の印刷見本を参考に作成 ・印刷原稿はテキスト・画像を配置したイラストレーターデータで入稿 ・画像は JPEG データも提供 ・テキスト・画像以外のデザイン (画像配置の微調整・壁紙等) を含む <p>※発注業務にかかる特許等を使用する場合は、受注業者において実施許諾を受けていること。 なお、受けている場合は許可番号を表示すること。</p> <p>※納入に際しては、事前に担当課の確認を受けた上で、納入場所へ納入し納品書に受領者印を もらって財政課へお出してください (原稿及び見本は担当課に返してください)。</p> <p>※納入期限は厳守してください。</p>			

大聖寺城略年表

- 建武2年 (1355)
「太平記」に城名がみえる。鎌倉方残党の名越氏を、地元の土豪狩野氏一党がこの城で迎え撃ったという。現在の津葉城のことか。
- 戦国末期 (16世紀後半)
加賀一向一揆の拠点となり、越前朝倉氏との攻防が繰り広げられた。
織田信長が一揆勢を掃討した後は織田信長の支配拠点となる。戸次丸はこの頃のもののか。
- 天正11年 (1583)
天下人となった羽柴秀吉が丹羽長秀に与え、その与力であった溝口秀勝が城主となる。現在残る大聖寺城跡の縄張は、大聖寺城下町とともに、このころに原形が造られたという。
- 慶長3年 (1598)
溝口秀勝が越後国新発田へ転封となる。変わって小早川秀秋の家臣山口玄蕃宗永が入城する。
- 慶長5年 (1600)
関ヶ原合戦の前哨戦として、豊臣方に与した山口玄蕃宗永は、大聖寺城に籠って徳川方の前田利長と戦う。山口玄蕃は戦死し、大聖寺城は落城した。これ以後大聖寺城は前田方の城として修築され、城代が置かれた。
- 元和元年 (1615)
一国一城令によって廃城となる。
- 寛永16年 (1639)
大聖寺藩創設。しかし大聖寺城は再建されず、大聖寺藩の藩領として一般人は入山を禁止された。

記念スタンプ



記念スタンプは登り口にあります



本丸櫓台
(発掘調査時)



山口玄蕃宗永公之碑
(本丸櫓台)

大聖寺城跡

加賀市指定史跡

大聖寺城は、大聖寺川や江沼盆地を通る街道を見下ろす小高い丘陵に築城されました。
この地は交通の要衝を見張るのに適し、低山ながら急峻な地形なので、軍事拠点として利用されました。戦国時代から織田信長・豊臣秀吉の時代にかけて度々合戦の舞台となりました。

江戸幕府の命令で廃城になった後、大聖寺藩成立後は人々の立ち入りが禁止された「お止め山」となり、大きな破壊を免れました。

江戸時代が終わり、明治時代になっても大きく改変されることがなかったため、今もほとんどが今に残されました。地面を削り、盛って造る『土づくりの城』から石を多く用いる『石垣の城』へと変遷する、近世城郭の成り立ちの様子良好に留めています。



発行：加賀市産業振興部文化振興課

〒922-8622 石川県加賀市大聖寺南町二41番地 TEL 0761-72-7888

協力：錦城山城址保存会

〒922-0055 石川県加賀市大聖寺京町1番地(大聖寺地区会館内) TEL 0761-72-0463

大聖寺城跡 イラストマップ



キーワード解説

- 曲輪 (くるわ)
山を削って平らにした面。
- 虎口 (こぐち)
曲輪の出入口。敵の侵入を防ぐために、様々な工夫をして通りにくくしてあります。
- 土塁 (どるい)
土を盛るなどして造った堤防のような壁。
- 櫓 (やぐら)
物見や防御のために造られた高い建物。

おすすめコース

短い時間で
楽しむ！
いいとこどり
コース
(約 30 分)

じっくりゆっくり山歩き

名城・大聖寺城跡
完全制覇コース
(約 100 分)

※⑧をカットすると 60 分

登り口

- ①馬出曲輪
- ②本丸南虎口
- ③本丸
- ④本丸櫓台
- ③ ↓ 戻ります
- ② ↓
- ① ↓
- ⑮下馬屋敷曲輪
- ⑯東丸

登り口

- ①馬出曲輪
- ②本丸南虎口
- ③本丸
- ④本丸櫓台
- ⑤本丸北東虎口
- ⑥馬洗い池
- ⑦二の丸
- ⑧戸次丸
- ⑨三の丸
- ⑩西の丸
- ⑪局谷
- ⑫骨が谷
- ⑬鐘が丸
- ⑭番所屋敷曲輪
- ⑮下馬屋敷曲輪
- ⑯東丸
- ⑰対面所跡

主なみどころ

- ①馬出曲輪 (うまだしくるわ)：本丸の手前にある、出撃用の曲輪。
- ②本丸南虎口 (ほんまるみなみこぐち)：本丸の出入口。守りやすいように折り曲げてあります。
- ③本丸 (ほんまる)：織豊期における大聖寺城の中心です。
- ④本丸櫓台 (ほんまるやぐらだい)：本丸よりも少し標高が高い。建物が建っていたかもしれません。
- ⑤本丸北東虎口 (ほんまるほくとうこぐち)：北東側の出入口。こちらもおりまげてあります。
- ⑥馬洗い池 (うまあらいいけ)：今も水が溜まる。飲み水だったのでしょうか。
- ⑦二の丸 (にのまる)：本丸とならぶ大きな曲輪。北と西に土塁が巡ります。
- ⑧戸次丸 (べっきまる)：溝口秀勝以前の大聖寺城の中心。小さい曲輪がいくつも重なる眺めは最高。
- ⑨三の丸 (さんのまる)：本丸の南側を守るように造られた曲輪。今の園路は、元々堀があったところに通っています。
- ⑩西の丸 (にしのまる)：西側を守る大きな曲輪です。
- ⑪局谷 (つぼねだに)：今は園路が通っている、本丸と鐘が丸を分ける谷です。
- ⑫骨が谷 (ほねがたに)：深く急な谷。鐘が丸を強力に守っています。
- ⑬鐘が丸 (かねがまる)：本丸と並ぶ、大きくて標高が高い曲輪。西側に大きな土塁が巡ります。
- ⑭番所屋敷曲輪 (ばんしょやしきくるわ)、⑮下馬屋敷曲輪 (げばやしきくるわ)：古地図にも名前が見える大きな曲輪。
- ⑯東丸 (ひがしまる)：東を守る大きな曲輪です。
- ⑰対面所跡 (たいめんじょあと)：ここで城主が来客を迎えたといわれています。庭などがあったのかも知れません。